

2017年1月吉日

各位

日本保険・年金リスク学会
研究会担当理事 大塚・河野・滝澤・田中・吉田

JARIP 研究会のご案内

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日本保険・年金リスク学会（JARIP）の研究会を下記のとおり開催しますので、各位の積極的なご参加をお願い申し上げます。

敬具

記

1. 研究会の概要

日時：2017年2月21日（火曜日） 開始：14:00 終了：17:00

場所：ラ・メール三番町ビル内 東京海上日動会議室（東京都千代田区三番町 6-4、地図は次頁）

講師：大倉 真人 氏 同志社女子大学現代社会学部准教授（講師略歴は次頁）

講演題目：「保険市場の経済分析－保険需要にかかるマイクロ経済分析を中心として－」

講演概要：

1996年の保険業法改正以降、保険市場における競争は激化の一途をたどっている。そしてこのような競争的な保険市場について議論をする際、市場や競争を主たる分析対象とするマイクロ経済学は、有力かつ有効な分析ツールである。実際、マイクロ経済学を用いた分析－さらにはその応用としての応用マイクロ経済学やゲーム理論を用いた分析－は、欧米における保険市場にかかる研究において主要な位置を占めている。

以上の背景を基礎に、本講演では、保険市場の経済分析について議論していく。なお保険市場の経済分析の検討範囲は多岐にわたるが、本講演では、その中でも特に重要なテーマの1つとされている消費者の保険需要にかかるマイクロ経済分析についてとりあげる。より具体的には、保険市場のマイクロ経済分析において基礎的役割を果たしている期待効用理論について説明するとともに、期待効用理論によってどのように消費者の保険需要が分析されるのかについて述べていく。しかしながら、期待効用理論は万能の手法ではなく、それゆえに保険市場で見られる全ての現象を説明できる訳ではない。このような期待効用理論の限界を出発点に登場したのが、心理などの非経済的側面にも焦点を当てた新しい経済学である行動経済学である。現実の保険市場を考えた際、保険を購入するか否かあるいはどの程度購入するかについて消費者が意思決定する場合、保険料や保険金の水準、保険事故発生確率といった客観的な側面だけでなく、「掛け捨て嫌い」などといった主観的(心理的)な側面も少なからず影響するものと思われる。この点を踏まえて、本講演では、この行動経済学の1つとして認知されている「後悔理論」(regret theory)を用いた保険市場の経済分析を行うことで、このような主観的(心理的)な側面も包含した検討を行っていく。

2. 参加費 無料

3. 参加申し込み

期日:2017年2月14日(火)(JARIP会員以外も参加可能です)

学会サイトの【専用申込フォーム】より申し込みください。

<https://fs222.formasp.jp/c442/form6/>

申込者数が定員60名に達した場合は、その時点で締め切ります。

4. 講師略歴

1996年3月、関西学院大学商学部卒業。2001年3月、神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了。2002年4月から2015年3月まで、長崎大学経済学部助教授(准教授)。2015年4月から、同志社女子大学現代社会学部社会システム学科准教授。

主な論文は、Asia-Pacific Journal of Risk and Insurance や Journal of Risk Finance などに掲載。主な研究テーマは「保険市場におけるコンフリクト構造の分析」であり、保険市場および保険市場に登場する各主体などにかかるミクロ経済分析を中心とした研究を行っている。

以上

[会場地図] ラ・メール三番町ビル内 東京海上日動会議室(東京都千代田区三番町6-4)

